



巻頭言 ギャップイヤーとインターン生

「ギャップイヤー (gap year)」という言葉を知ってますか？ 学生が大学入学前や在学中、卒業後に就職するまでの時期に、留学やインターンシップ、ボランティアなどの社会体験活動を行うため、大学が猶予期間を与える制度です。ギャップイヤーの gap は「隙間」を意味し、人生のインターバル期間となる隙間をつくり、主体的で深い学びとなる留学や社会体験活動を行えるようにするものです。望三郎はこの4月から12月までの期間、この春高校を卒業したばかりの18歳の女性新垣明日歌さん（※サポーターからの応援メッセージ参照）をインターンシップ生として受け入れています。インターンシップとは、学生等が実際に仕事を体験する“就労体験”制度で、欧米では学生が当たり前のようにインターンシップに参加します。日本でも徐々に普及し、若者にとって社会に出る前の貴重な経験となっています。明日歌さんは卒業したら進学・就職というお決まりのコースではなく、あえてギャップイヤーを設け、私の議員及び議会活動を中心にインターンを行っています。質問の調査のための視察同行や市民相談に同席するなど、日々意欲高く学んでおり、彼女の発する感想や意見に逆に気づかされる

ことも多いです。インターンを通じて18歳の若者が政治や安曇野市のまちづくりをどのように捉えるのか。そして彼女がどのような大人になっていくのかとても楽しみです。

インターン生の受入れは私も初めてのチャレンジですが、議員活動やこの安曇野が若者たちの学びの舞台となり、若者を応援するまちにしていきたいと強く願っています。



▲まちづくりの課題について市民と対話する明日歌さん

6月定例会トピック

最終日に以下の討論をしました。

・**一般会計補正予算（第3号）に反対討論**
マイナポイント予約申込支援事業に反対する。私は行政DX（デジタル変革）を推進するが今回のマイナンバーカードと保険証を一体化する国の方針は、カードの取得は任意としながら、実質強制的に取得させるもので、これには異議を言わずにいられない。国がすべきことはマイナンバーカード作成による利

便性を国民に丁寧に説明し、また噴出した諸課題の解決をしっかりと行うことだ。強引な国のやり方には、小さな反対の声をこの議会でも挙げたい。

・陳情「安曇野市における青少年の国際交流の機会拡充を求める陳情書」に賛成討論

海外留学を支援する給付型奨学金制度の導入について。長野県が本年度返済の必要のない給付型奨学金制度を創設した。現行は貸与型が主流で、卒業後の返済が重い負担となり、結婚や出産をためらうなどの問題がこれまでも指摘されてきた。政府も給付型の拡充方針を示しているが、先駆けて若者たちの可能性を社会全体で応援する県の制度は待ち望まれた施策だ。我が安曇野市はどうか。我々が取り組む政治は、若者たちの可能性を応援するものとなっているか。ふるさと納税基金残高が3年度末で約24億5千万円あるが、これを財源に市としても給付型奨学金を考えていけないか。

委員会の陳情審査では若者の海外チャレンジも素晴らしいが、まずは国内での給付型奨学金を先んずべきとの意見もあった。それは海外チャレンジできる人は余裕のある世帯で、それよりも余裕のない世帯を支援すべきとの考えがあるようだ。しかし私はこれに異を唱える。余裕のない世帯の若者だって海外を目指していいのだ。これからの時代、社会は益々多様になる。その多様な社会を導き、担うのは多様な生き方を発現していく若い世代一人一人だ。若い世代の挑戦を応援する安曇野市であってほしい。

●プロフィール

大分県出身 54 歳。東京経由で安曇野に移住し 20 年目に。三郷小倉に妻と子ども、妻の両親の3世代で暮らす。自給の農業をしながら、出会いと体験の宿『安曇野地球宿（ちきゅうやど）』を経営。安曇野市議3期目。好きな言葉は『出会い、共感、展開』



サポーターからの応援メッセージ 36

新垣明日歌さん（三郷／インターン生）



私は初めて一般質問の傍聴に行きました。私達の暮らすまちのことを話し合う、最も公な場である議会。そこでどんな人たちがどんな姿勢でこのまちに向き合っているのか。どういう雰囲気の中で何をテーマに議論しているのかとても気になったからです。3日間傍聴して、今の市議会を少しでも深く感じ取りたいと思いました。自分の意見を届けてくれる代表者を議会に送り出すことは政治参加のゴールではなく、「自分の暮らしたいまち」を共に創るためのスタートなのだと強く自覚しました。

嬉しかったのは、議会で質問を投げかける望さんの顔が地球宿でみんなと夢を語り合っている時と変わらなかったことです。いつでもどこでも立場や肩書きでなく、対話から全てが始まる望さんの人との真っ直ぐな向き合い方が私は大好きです。相手が大人でも子どもでも、議員でも行政の人でも一市民でも、そこには相手へのリスペクトが通底しています。望さんの在り方は、人間味があって人と人とのつながりの中で生きる温もりを体現しているように感じます。慣習の多い議会という場で対話から始まる市政を本気で夢みる望さんがかっこいいです。自分の事もまちの事も次世代の子ども達のこと、全部自分事。私もそんな1人の主体者として生きていきたいです。

6月定例会の一般質問

テーマ1「洞合公園隣地の開発について」

【解説】黒沢洞合自然公園の隣接私有地の太陽光パネルの開発は安曇野市が「公園や周辺土地を含めた豊かな自然環境や景観を守るまちづくりの目標像に沿った計画ではない。」という理由で不認定にしました。本開発が無くなった今、この民有林を今後どう適正に管理するか課題が残ります。不認定理由にあるように、この民有林も公園と一体的に文化的財産を形成しているならば、その維持・保存についても一体的に考える必要があります。

望市議 林野庁の森林経営管理制度を活用して市が管理することは可能か。

行政 該当民有林は本制度の対象森林。所有者へ意向調査を行う予定。その結果により、所有者が自ら管理できない場合は、市が委託を受け森林整備を行うことは可能

望市議 現在の公園拡張整備計画の中でも検討していく課題になるのか。

行政 検討の範囲は拡張予定のところ。周辺で今回のような開発が進められないよう、魅力的な公園にしていく。今後も隣地の動向は注視していく。

テーマ2「子どもも先生もワクワクする学校づくり」

【解説】一部過疎地域に指定された明科の明北小では児童数の減少が続いているが、市長は「廃止にしない。」と明言し、その方策として市内全域から入学・転学できる「小規模特認校制度」の導入を検討している。小規模ならではの特色ある教育活動により学区外からも選ばれる学校となり、地域を活性化していくことが期待されている。今回の質問では、市が考える明北小の特色とその学校の中身をどのように検討していくかを問いました。



望市議 明北小に小規模特認校制度をとり入れる目的や狙いは

教育長 児童数が増えれば多様な人から学び合う効果が期待できる。子供の主体性を尊重した体験的な活動を大事にした自然保育を実施する明科北こども園が隣接し、市内外から通園している明科北園の子どもたちが引き続き明北小への通学を希望すればできる。市にはなかった公立学校の選択が可能になる。

望市議 他校区から通いたくなるには、それだけの特色や魅力が必要。市が現時点で考える明北小の特色とは。

教育長 自然、文化、歴史の貴重なもの、おらが学校を愛する地域の人々など明北小独自の地域資源を生かした活動が盛んに行われている。市内で最も人数が少ない小規模校で、一人一人の良さを認め合い、よりきめ細やかな学習指導や異学年での学び合いが可能。

望市議 明北小の中身をどんなプロセスでつくるのか。明北地域の考えは大事でベースになるが、これからの未来の学校は、現状の見直しも含め広範な議論が必要。先生たち、子どもたちの意見も聞いてみてはどうか。

教育長 明科地域は小中一貫教育を先進的に推進し、教員同士の連携活動がある。当事者である明北小の先生に小規模特認校導入をしっかりと議論し、学校の在り方を考えて頂く。子どもたちにもぜひ聴いてみたい。

望三郎からもう一言

明北小の小規模特認校の議論もキッカケにして子どもたちも先生も、ワクワクして通いたくなる学校づくりをぜひ安曇野市の公立校でも進めていきたいと思います。

望三郎の議会動向について

4月1日付をもって無所属議員5人による会派「無所属の会」を作りました。新年度にあたり無所属議員が7人になったのですが、無所属の場合、先例によると議会運営委員会(=議運)の割り当ては何人いても1人、広報委員会、議会改革推進委員会は割り当てがありません。無所属議員への不平等性はこれまでも伝えてきましたが、先例を変えるにはその決定を行う議運で多数派となる必要があります。そこで戦略的に会派を作り、議運に参加しようとしたのですが、結果5人の会派となり議運参加枠は2人となり、今だ先例は変わっていません。この先例見直しの議論をぜひご注目ください。また不在だった総務環境委員会の委員長に望三郎が選ばれました。

みんなでカフェトークはお休みします

定例会後に行う「みんなでカフェトーク」は7月2日に同趣旨の企画を市民有志が開催したため、今回はお休みします。望三郎に相談がある方はいつでも気軽にご連絡ください。
080-5486-6111 / boetu@d6.dion.ne.jp



▲統一地方選 若手候補者の応援に

望三郎市議が行く!!

第37話

『全国の新入議員ネットワークと政治塾開講!』

出演・望市議、にじと、ピース

春の統一地方選で新しい地方議員がたくさん誕生したよ。
望市議 望さんも応援演説に行ってたよね!
にじと 応援してた人は全員当選!

でも当選はスタート地点、不安な新入議員たち
議員になってからが本番さ。
議員の仕事がよく分からなかったり、閉鎖的な議会が嫌で1期で辞めちゃう人もあるよ。

そこで全国各地の新入議員たちのネットワークを作って、オンラインで勉強を始めたよ

日本各地で頑張ってる議員たちがいるんだね。
さて、安曇野は?
じっ

ウフフ、2年後の市議選も視野に入れて、安曇野でも小さな政治塾を始めるよ。
小さな政治塾 この秋スタート!